

令和元年度

共済組合の貯金事業概要

佐賀県市町村職員共済組合

目 次

◆ 令和元年度 貯金事業に関する事業計画	1
1. 令和元年度における貯金事業の概況	
(1) 組合員貯金の状況	2
(2) 事業運営の経過	2
(3) 貯金経理の状況	3
(4) 貯金経理の資産構成割合	4
(5) 預金の銀行別運用状況	4
(6) 債券の種類別運用状況	4
2. 過去5年分の事業状況	
(1) 組合員貯金の状況	5
(2) 貯金経理資産の運用状況	6
(3) 当期利益金と利益剰余金の状況 (欠損金補てん積立金及び積立金)	6
3. 取引金融機関の経営状況	
(1) 自己資本比率	7
(2) 格付け	7

共 済 組 合 の 貯 金 事 業

佐賀県市町村職員共済組合の貯金事業は、地方公務員等共済組合法に基づき、組合員の福祉の増進に資するため、組合員の貯金の受入れ又は運用を行い、その収益を還元することを目的に運営しております。

◆ 令和元年度 貯金事業に関する事業計画

貯金事業運営にあっては、払戻額及び解約の減少により、貯金残高は前年度末より4億円程度増加し186億円が見込まれる。

事業の安定的運営を保持するため、現行の支払利率「年利0.6%」を維持し、資金の安全かつ効率的運用を図るとともに、新規加入者の促進及び既加入者の積立の促進を図るものとする。

- 1 新規加入者の加入推進及び既加入者の貯金事業の積極的利用の推進を図るため、各種会議での推進及び広報紙等により積極的な推進に努める。
- 2 貯金経理の資産の管理運用については、今後の支払資金の動向を的確に把握し管理するとともに、最近の金融市場の変動に十分注意を払い資産の安定的な運用を図るため、引き続き安全かつ効率的な運用に努める。
- 3 事業の安定的運営を保持するため貯金事業の制度内容・運用状況について十分な認識と理解を得られるよう適切な情報の提供に努める。

1. 令和元年度における貯金事業の概況

(1) 組合員貯金の状況

(単位：円、人、%)

貯金の種類 区分	積立貯金		
	元年度末	30年度末	比較増△減
貯金額	18,664,523,143	18,332,867,725	331,655,418
貯金者数	4,220	4,267	△47
1人当たり貯金額	4,422,873	4,296,430	126,443
組合員加入率	47.58	48.20	△0.62
支払利率	0.6	0.6	0

(2) 事業運営の経過

支払利率「年利0.6%」の維持

組合員の退職に伴う加入率の低下が続く中、事業の安定的運営を図るため、現行支払利率「年利0.6%」を維持し、既加入者の積立意欲の高揚を図るとともに、新規加入の推進を図った。

未加入者の加入推進

未加入者の加入の推進を図るため、広報紙による貯金事業のPRを行うとともに、事務担当者説明会、新入組合員研修会において、推進を行った。

臨時積立額の増加により、前年度末より3億3千万円の貯金残高増加

「積立額」については増加傾向にあり、特に「臨時積立額」の増加が大きい。

その結果、令和元年度末貯金額は、前年度より331,655千円増加し、18,664,523千円となった。

(3) 貯金経理の状況

貸借対照表 (2年3月31日)

(単位：円)

借方	金額	貸方	金額
流動資産	2,590,429,772	流動負債	18,675,867,860
普通預金	213,686,476	組合員貯金	18,664,523,143
定期預金	2,343,000,000	未払費用	207,100
仮払金	345,041	預り金	11,137,617
未収収益	33,398,255	固定負債	37,267,526
		退職給与引当金	37,267,526
固定資産	17,595,663,000	剰余金	1,472,957,386
投資有価証券	17,595,663,000	欠損金補てん積立金	933,226,158
		積立金	539,731,228
資産合計	20,186,092,772	負債・純資産合計	20,186,092,772

損益計算書 (31年4月1日から2年3月31日まで)

(単位：円)

損失	金額	利益	金額
経常費用	136,309,771	経常収益	192,391,376
支払利息	110,375,559	利息及び配当金	192,168,256
職員給与	17,848,809	償還差益	180,000
その他	8,085,403	その他	43,120
当期利益金	56,081,605		
当期利益金	56,081,605		
合計	192,391,376	合計	192,391,376

収支の状況

経常収益の運用収入等 192,391,376 円に対し、経常費用は、支払利息 110,375,559 円を含む事業費用 136,309,771 円で、差引 56,081,605 円の当期利益金を生じた。

利益剰余金の処分 (令和2年6月の決算組合会において決算承認)

当期利益金 56,081,605 円の内から、16,582,771 円を欠損金補てん積立金に積立て、残りの 39,498,834 円を積立金に積立てた。

したがって、前年度より繰り越した欠損金補てん積立金 916,643,387 円と 16,582,771 円を合わせ、翌年度に繰り越す欠損金補てん積立金は 933,226,158 円となる。

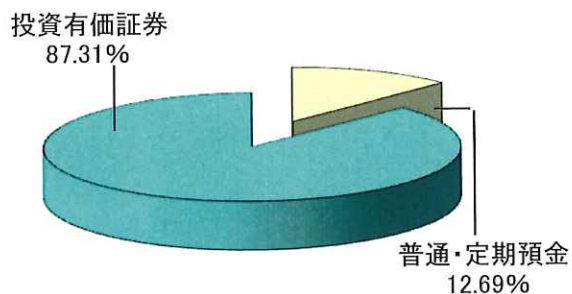
また、積立金は、前年度より繰り越した 500,232,394 円と 39,498,834 円を合わせ、539,731,228 円を翌年度へ繰り越すこととなる。

(4) 貯金經理の資産構成割合(令和元年度末)

(単位：千円、%)

資産区分	金額	割合
普通・定期預金	2,556,686	12.69
投資有価証券	17,595,663	87.31
計	20,152,349	100.00

資産構成割合

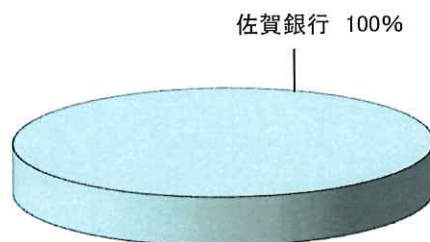


(5) 預金の銀行別運用状況(令和元年度末)

(単位：千円、%)

銀行名	金額	割合
佐賀銀行	2,556,686	100.00
計	2,556,686	100.00

預金の銀行別運用状況

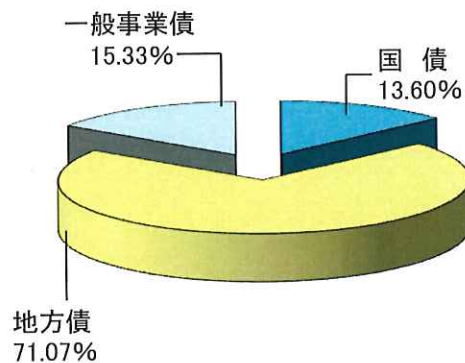


(6) 債券の種類別運用状況(令和元年度末)

(単位：千円、%)

種類	金額	割合
国債	2,393,240	13.60
地方債	12,505,474	71.07
一般事業債	2,696,949	15.33
計	17,595,663	100.00

債券の種類別運用状況

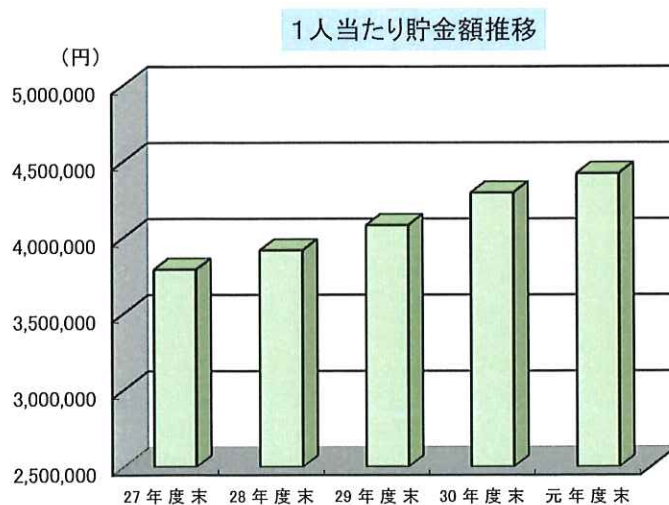
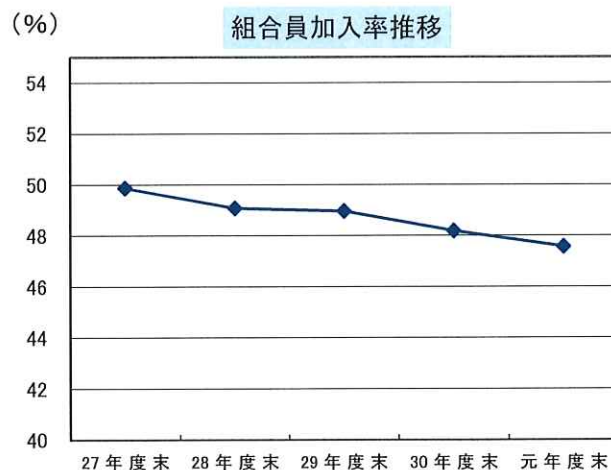


2. 過去5年分の事業状況

(1) 組合員貯金の状況

(単位：円、人、%)

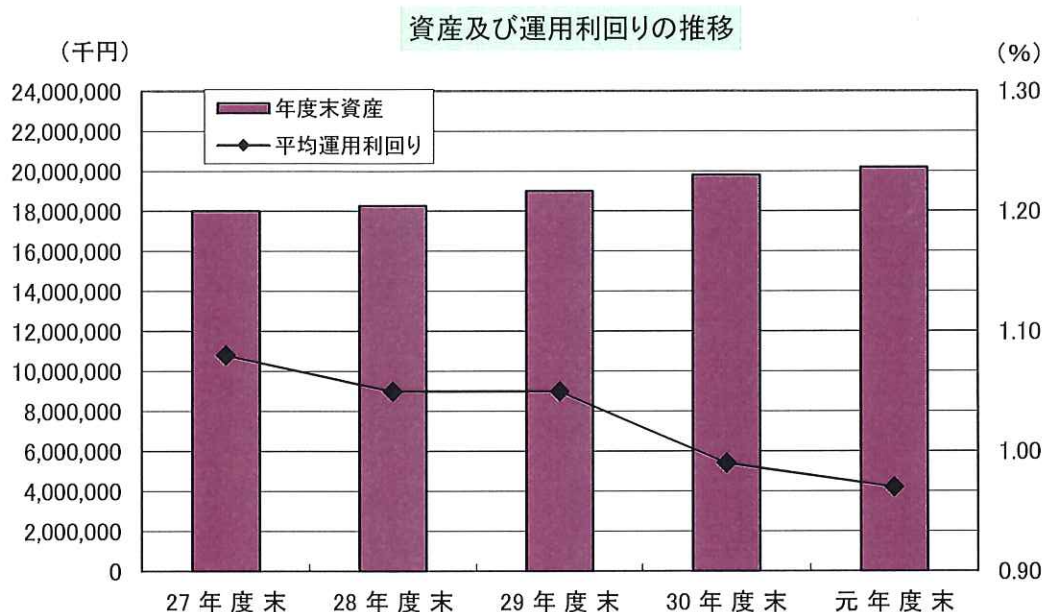
区 分	27年度末	28年度末	29年度末	30年度末	元年度末
貯 金 額	16,739,453,364	16,937,970,893	17,601,979,594	18,332,867,725	18,664,523,143
貯 金 者 数	4,414	4,323	4,311	4,267	4,220
1人当たり貯金額	3,792,355	3,918,106	4,083,039	4,296,430	4,422,873
組合員加入率	49.87	49.08	48.97	48.20	47.58
支 払 利 率	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6



(2) 貯金経理資産の運用状況

(単位：円、%)

区 分	27年度末	28年度末	29年度末	30年度末	元年度末
年度末資産	18,006,273,421	18,269,697,491	19,003,680,554	19,795,432,548	20,186,092,772
資産の運用利益金	192,529,666	189,657,355	194,953,120	191,359,757	192,348,256
平均運用利回り	1.08	1.05	1.05	0.99	0.97

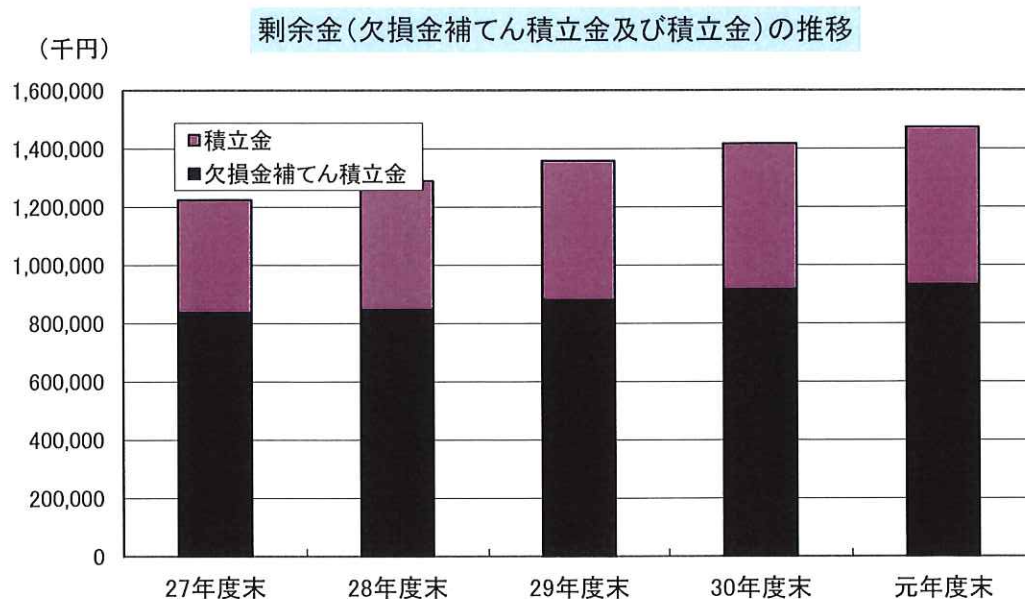


(3) 当期利益金と利益剰余金の状況(欠損金補てん積立金及び積立金)

(単位：円)

区 分	27年度末	28年度末	29年度末	30年度末	元年度末
当期利益金	69,862,640	65,693,667	68,783,709	59,169,553	56,081,605
欠損金補てん積立金	836,972,669	846,898,545	880,098,980	916,643,387	933,226,158
積立金	386,256,183	442,023,974	477,607,248	500,232,394	539,731,228

欠損金補てん積立金： 共済組合法施行規程第87条第2号の規定により、将来の欠損金の補てんに充てるため、毎事業年度末において「当期利益金」を組合員の貯金額の100分の5以上に達するまで「欠損金補てん積立金」として積立てなければならない。



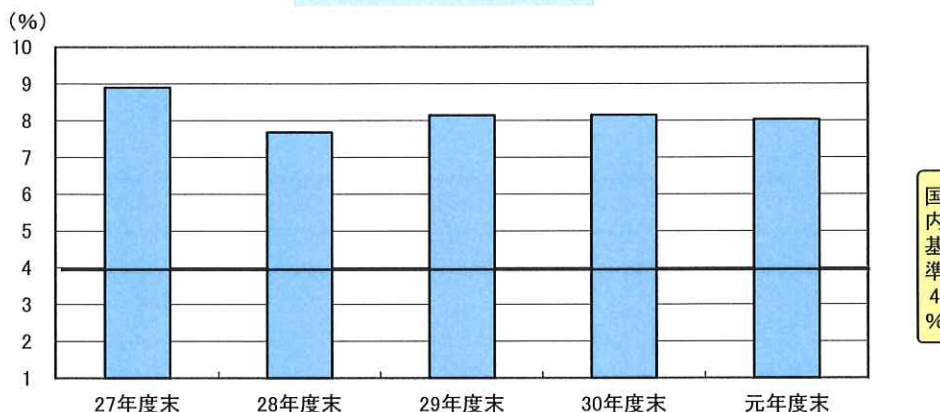
3. 取引金融機関の経営状況

(1) 自己資本比率

(単位：%)

取引金融機関名	27年度末	28年度末	29年度末	30年度末	元年度末
佐賀銀行	8.90	7.68	8.14	8.15	8.03

自己資本比率(佐賀銀行)



自己資本比率：貸出残高、保有有価証券などの総資産に占める資本金・引当金など、内部資金の割合。海外に拠点を持つ銀行の場合、国際決済銀行(BIS)の規制(国際統一基準)で8%以上、また、国内業務に特化した銀行の場合、4%以上の比率を維持することが求められる。健全行の目安となるこうした基準を下回った場合は、一部の業務停止などを含む早期是正措置が金融監督庁から発動され、自己資本の早期回復が求められる。

(2) 格付け

令和2年5月現在 R&I (日本格付投資情報センター)

取引金融機関名	格付
佐賀銀行	BBB+

格付けの定義

AAA	信用力は最も高く、多くの優れた要素がある。
AA	信用力は極めて高く、優れた要素がある。
A	信用力は高く、部分的に優れた要素がある。
BBB	信用力は十分であるが、将来環境が大きく変化する場合、注意すべき要素がある。
BB	信用力は当面問題ないが、将来環境が変化する場合、十分注意すべき要素がある。
B	信用力に問題があり、絶えず注意すべき要素がある。
CCC	信用力に重大な問題があり、金融債務が不履行に陥る懸念が強い。
CC	発行体のすべての金融債務が不履行に陥る懸念が強い。
D	発行体のすべての金融債務が不履行に陥っているとR&Iが判断する格付。

(注) +-は同じ格付け内での優劣を示す。

格付け：債券、商業ペーパー(CP)、資産担保債権(ABS)などの元本、利子の支払いの安全の度合いを、投資家のだれにでもわかる簡単な記号で示したもの。

企業の収益、財務状況、経営力、受託契約の内容などを、総合的に評価したうえで格付けする。

[主な格付機関] R&I(日本格付投資情報センター)、JCR(日本格付研究所)、Moody's(ムーディズ社)